

創学舎ニュース

No.244

大学入試結果

〔国立大学〕

- 東京大学 一名
- 千葉大学 二名
- 東京工業大学 一名
- 埼玉大学 一名
- 東京農工大学 一名
- 大阪府立大学 一名
- 横浜国立大学 一名

他

〔私立大学〕

- 早稲田大学 一六名
- 慶應大学 二名
- 上智大学 四名
- 立教大学 一〇名
- 明治大学 二名
- 法政大学 四名
- 青山学院大学 一名
- 中央大学 三名
- 津田塾大学 二名
- 東京理科大学 二名
- 明治学院大学 三名
- 成蹊大学 三名
- 日本女子大学 四名
- 成城大学 三名
- 東京女子大学 三名
- 日本大学 一名
- 専修大学 一名
- 駒澤大学 八名
- 文教大学 五名
- 東洋大学 七名

高校入試結果

〔国立高校〕

- 東京工業大学付属科学技術高校 二名
- 東京藝術大学付属高校 一名
- 木更津工業高等専門学校 一名

〔公立高校〕

- 東葛飾高校 一三名
- 県立船橋高校 五名
- 薬園台高校 一名
- 県立柏高校 一九名
- 小金高校 一五名
- 柏南高校 一四名
- 鎌ヶ谷高校 四名
- 幕張総合高校 一名
- 松戸国際高校 三名
- 柏中央高校 七名
- 我孫子高校 八名
- 柏西高校 二名
- 船橋西高校 一名

他

〔私立高校〕

- 江戸川学園取手高校 二名
- 芝浦工業大学柏高校 一六名
- 専修大学松戸高校 一九名
- 明治学院高校 二名
- 麗澤高校 二名
- 国府台女子学院 一名
- 流通経済大学付属柏高校 四五名
- 春日部共栄高校 二名
- 土浦日本大学高校 四一名
- 東洋大学付属牛久高校 二四名
- 常総学院 二名
- 中央学院高校 三九名
- 二松学舎大学附属沼南高校 一一名
- 西武台千葉高校 一一名

他

卒業おめでとう!

●今年の入試も終わった。そして、創学舎では、小中高あわせて、三百人近くの生徒が卒業式を迎えた。中でも、高3生の諸君とは、これできりあえずのお別れである。式の日から、もう二週間以上も過ぎてしまい、その日の感動やさびしさや決意といったものは、すでに色あせてしまっているかもしれない。しかし、改めておう。卒業生のみなさん!卒業おめでとう!

●卒業した本人は勿論、様々な感慨があるはずだが、私達講師も、自分が教えている子供達の卒業に対しては、特別な思いを抱くのだ。「よく頑張った。」「よくここまで来た。」「また次の生活へ勇気を出して進んでほしい。」「……」

一人一人の顔が思い出される。ともに過ごした様々な場面がよみがえってくる。そうです、今、私達講師は、間違いなくきみ達の卒業を喜び安堵しながら、一方で淋しさも感じています。

●さて、受験が不本意な結果に終わり、失意の日々を過ごすことになった人もいます。「志望校合格」というきみ達の目標に対して力を貸すことが、私達の仕事なのですが、その点では、私達の力が足りなかった部分もあって、申し訳なく思います。どうぞ、この一年、新しい場所で頑張つて、夢をかなえて下さい。また、行き詰ったときは、遠慮なく相談に来て下さい。きみ達のお役に立つことが、私達の仕事であり、喜びです。

●ところで、「人生、苦しい時が登り坂」という言葉を知っていますか?私が好きな言葉の一つです。実際に山に登るときも、日々の生活で苦しいときも、私はこの言葉を思い浮かべます。自分がその頂を望んだからその登り坂であり坂道なのです。苦しくとも歩き続けて下さい。受験は勿論、人生の一つの関門にすぎませんが、自ら目標を持ってそれに挑むことは、素晴らしい行為であり、経験なのです。どうぞ頑張つて下さい。

●伝えたいこと、分かってほしいことは、他にもたくさんありますが、字数も余りありません。そこで最後に。心を柔らかく、体健やかに、夢を育み、親への感謝を忘れず、友を大事にし、自分が心から打ち込めるものをいつか見つけて自分の能力をそれぞれに発揮し、しかし世の中の害になることはせず、自分がなれる最高の自分になって下さい。(小林)

☆親子の関係は休載です。

トーチライト 3

時折、田舎の母から手紙が来る。実家に送られた私宛の郵便物を、転送してくれる時に添えられている程度のものなので、メモ、と言った方が適当だろうか。近況を尋ねたり、体調を気づかしたりと、ありふれた内容だけれど、私はいつも大切に読んでいます。

高校生の中には、よく母と話をした。兄が上京し、父も家を空けることが多かったから、母

とおしゃべりをすることは自然だった。このことをほとんど知らない父が、娘がいたほうが話し相手に困らないのでは、と言ったことがあって、それを二人で懸命になって否定したこともある。攻撃的な性格の父に怯えていた私は、穏やかで人を傷つけることを好まない母に安心感を覚え、父に対して連帯する同志のように、勝手に思っていた。

母は父と違って、あつけらんかんとしている。もし心配事があった夜なかなか寝付けなかったとしても、何があったのかと詰問するだろうか。父には言わない。しかし、母は「まあ、かわいそう。」と笑いとばしてしまうはずだ。細かいことを気にしすぎて、物事を必要以上に複雑にしてしまう私は、この良い意味での軽さを頼って、父には言わないことを、何度か母に話した。

大学の卒業を控え、その後の進路を決めなければならなくなると、いろいろ考えたけれど、やっぱり勉強が好きです、と母に書いたことがある。「勉強が好きというのとはとても良いことです。やりたいことをやれるといいですね。年をとってから後悔しても遅いです。」と返信にはあった。それ以前から、働く女性や女性が活躍する映画について話をする時の、表情や声の調子から感じとってはいたが、母の人生への想いを言葉として目にしたのは、初めてだった。さりげなく書かれていただけに、驚きは大きく、しばらく涙が止まらなかった。

これまでに何度か、高校に入学した途端に笑

われ始めた、と書いたが、実は中学校の時からすでに笑われていた。剣道の試合中に、対戦相手にずっとニヤニヤされたり、図書室で本を読んでいると、好奇の目で見られたりした。理由は分からなかったけれど、似たようなことがあって、母にそれを伝えると、その度に、こちらが驚くほどの強い口調で、気にしていることを否定してくれた。

ある時、私とは理由が異なるが、母も若い頃に外見をからかわれたことを、話してくれた。「だから絶対やらなきゃと思って。」そう言っ、歯の矯正を私に受けさせたことを、付け加えた。話題にはあげなかったが、前述の事もこの理由によるのだろう。

人生が闇であり、苦痛に満ち満ちているだけではないか、と考えていた私にとって、母がいてくれたことは大きな安らぎだった。家に帰れば母がいるということに、何度、救われたのだろうか。母の帰りが遅くなった時に、簡単な食事を私が作ったことがある。おいしい、おいしい、と言いながら食べる母の姿は、今でも鮮やかに記憶の中にある。その母も、今年、還暦を迎える。

(武内)

●ネコの幸福

●我が家はネコ歴25年。一日として、ネコのいなかった日はない。初代は、「クロ」。死んだときは戒名を「空露」とし、真言宗のお寺さんに埋めさせてもらった。今思えば、すごいこと

をしてしまった。戒名をつけた私も相当なものだが、その埋葬を快くひき受けてくれたお坊さんもただものではない。関東某市に眠る。

●その後、「シマ」「ミルク」と続いて、今は「タマ」と「ミキ」の2匹が時にはバトルを展開しつつ暮らしている。途中で、一日だけ我が家にいたネコや、一週間でいなくなってしまうやつも5匹ぐらいいたかもしれない。ともかく、我が家はネコ一家なのである。しかも、ネコが一番偉い。ネコが一番大切にされているのだ。

●「タマ」は一六歳になった。人間でいえば、八〇歳はゆうに超えているらしい。時々、元気がない日があるが、大きな病気はせず、静かな日々を送っている。得意技は、ヘッドバット。いわゆる「頭突き」というやつ。毎日六時頃、メシを食わせると眠っている御主人様に頭突きをくらわせる。お陰で目覚ましはいらぬのだ。が。それでも、何とかならないか。せめて七時頃にしてよね、タマ!

●もう一匹は、「ミキ」。トリノオリンピックの頃からは「ミキティ」とも呼ばれている。これはお金がかかっている。五年前に今の家に私達一家は越してきたのだが、それまで住んでいた家に産み落とされたのが「ミキ」だった。母ネコは、すぐにいなくなり、ミキとあと二匹の兄弟が、まだ眼も開かない状態でふるえていたのだ。ネコ一家としては、当然見捨てるわけにはいくまい。主人である私の許可もないうまま、子供達は勝手に世話することを決定、彼等の養育

が始まったのだ。母ネコからほとんど乳を飲ませてもらえなかったせい、三匹とも虚弱で、いつ死んでもおかしくない状態。しかしさすがはネコ一家。三匹を助けるためにあらゆる手をうったのだ。すでに、家族の一員として十年余の実績をもつ「タマ」の気持ちも顧みず。

年中無休で二四時間体制の松戸は「日野動物病院」に何度もかけこんだのであった。注射もバンバン打ってもらって、本当にお世話になりました。でも、その注射がインターフェロンという名前、すごく高いなんて、主人である私はずっと後で知ったのです。：以下次号。(小林)

☆創学舎から本が出ます

☆受験生は読め!(合格のヒケツがココにある)

●勉強法・精神面のケアなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。一般的なノウハウ本とは一味ちがったアドバイスを満載しています。●書店発売は未定です。

☆愛の壁―お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか

●創学舎ニュースの編集責任者 小林が二十年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

●四月下旬、「小林憲右」の名で全国書店で発売予定です。

★卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば、創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍した教室までご連絡下さい。